

これは、遺された 「一軒の家」をめぐる ある家族の “命”の物語。



2011年3月11日午後3時40分
福島県沿岸に押し寄せた津波、
そして原発事故—
見捨てられた命が、そこにはあった。

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた福島県南相馬市萱浜(かいはま)地区。消防団員の上野敬幸さんは両親と子ども2人を津波で流され、必死に捜索を続けていた。その最中、福島第一原発が爆発した。



「本当に助けて欲しいって
思った時には、
来なかったねえ、誰も—」

捜索のため避難を拒んだ上野さん。その目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された故郷・萱浜に、唯一、遺った我が家だった。この「一軒の家」とともに、物語は紡がれていく—。

「天国のみんなに安心して欲しい。」—すべてが流された萱浜で再起を誓う上野さんは、一面に菜の花の種をまいた。一方、震災後に生まれた娘と妻の3人になった家族には、それぞれの想いが交錯する。そこにはいつも亡くなった4人の存在があった。

「生きているから出来ること。
生きているからこそ、
やらなきゃいけないことがある。」

やがて、第一原発が立地する大熊町で、同じく行方不明の我が子を探す木村紀夫さんと出会う。「復興」の波に抗い続けた上野さん。避け続けてきた現実を前に、ついに苦渋の決断を下す。そして5年9ヶ月後、訪れた奇跡の瞬間とは—。



映画「Life」からのメッセージ

撮影開始から5年半をかけて完成したこの映画は、津波と原発事故がもたらした福島の“知られざる悲しみ”を伝えます。ゆっくりと乗り越えるように歩み、前を向く上野さん一家。その姿は、私たちに問いかけます。家族とは何か—、そして、生きることは—。



監督 笠井千晶 さいちあき

2018年9月23日(日)

上映後アフタートークイベント開催！
監督挨拶、ゲスト(上野敬幸さん・南相馬市)を
お招きして対談

■場所: 暮らしき健康福祉プラザ プラザホール
■時間: 13:30 開場 / 14:00 開演 / 16:00~16:30 トークイベント

■主催: 暮らしき防災士の会・岡山防災ボランティア
■お問い合わせ先: 090-4101-7515(担当: 小野)

